

世界初の挑戦語る

はやぶさ開発 吉川准教授講演

宇都宮

小惑星探査機「はやぶさ」の開発に関わった宇宙航空研究開発機構(JAXA)の吉川真准教授が20日、宇都宮市立陽東中で「挑戦」をテーマに講演した。世界初に挑む困難さなどを分かりやすく説明する吉川准教授の理知的な語り口に、生徒・保護者ら約900人が聴き入った。

2010年地球に帰

還したはやぶさは、月以外の惑星から初めて物質を持ち帰った。吉川准教授は「小惑星は誕生からあまり性質が変化しておらず、探査で誕生当時のことが分かる。将来的な資源活用の可能性もある」などとプロジェクトの意義を説明した。

世界初の実績は、裏返せばすべて前例のない挑戦。着陸前になっ

て小惑星「イトカワ」の表面が凹凸だらけで着陸できる場所がほとんどないことが分かるなど「想定外」の連続だったが、メンバー



生徒代表から花束を受け取る吉川真准教授(右)

宇都宮市立陽東中で

の粘り強い取り組みで一つ一つ乗り越えたことを紹介し「挑戦には新しい考え方が必要。若い人がどんどん考えてほしい」と呼びかけた。

講演後の質疑で発言した正田翔琉君(3年)は「人類がほとんど知らない宇宙のスケールの大きさに魅力を感じる。はやぶさにも興味があった本を読んでいたが、実際に苦労した方の話を聞くと感動が違った」と目を輝かせた。

【高橋隆輔】